

第 2 期 摂津市行政経営戦略

基本構想（案）

第1章 序論

第1節 計画の概要

- 1 策定の趣旨
- 2 構成と期間

第2節 社会潮流

- 1 人口減少・少子高齢化の加速
- 2 地域共生社会の実現
- 3 技術革新がもたらす社会変革
- 4 自然災害や社会情勢における不確実性・リスクの顕在化
- 5 地球環境に関する持続可能な社会づくり
- 6 社会インフラの老朽化対策

第3節 本市の現状と人口減少社会を見据えた主な課題

- 1 現状
- 2 人口減少社会を見据えた主な課題

第2章 基本構想

第1節 基本構想の構成

第2節 将来都市像

第3節 めざすまちの姿

第4節 基本姿勢

第1章 序論

第1節 計画の概要

1 策定の趣旨

摂津市は、昭和46年（1971年）に「摂津市総合計画」を策定以来、4次にわたり総合計画を策定するとともに、平成28年（2016年）に「摂津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、まちづくりを進めてきました。

令和3年（2021年）には、まち・ひと・しごとの創生による人口減少の緩和及び地方創生を目的とした総合戦略と、それらを含む総合的な振興・発展を目的とした第4次総合計画を一体化した「摂津市行政経営戦略」を策定し、持続可能なまちづくりを目指してまいりました。

この度、計画期間の満了に伴い、これまでの経過を踏まえつつ、さらなる活用に向け、まちづくりの羅針盤である「第2期摂津市行政経営戦略」を策定します。

2 構成と期間

① 構成

本計画は、「基本構想」、「基本計画（各施策計画）」で構成します。それぞれの概要は、次のとおりです。

(1) 基本構想

めざす将来像を明らかにし、それを達成するための目標を示すものです。

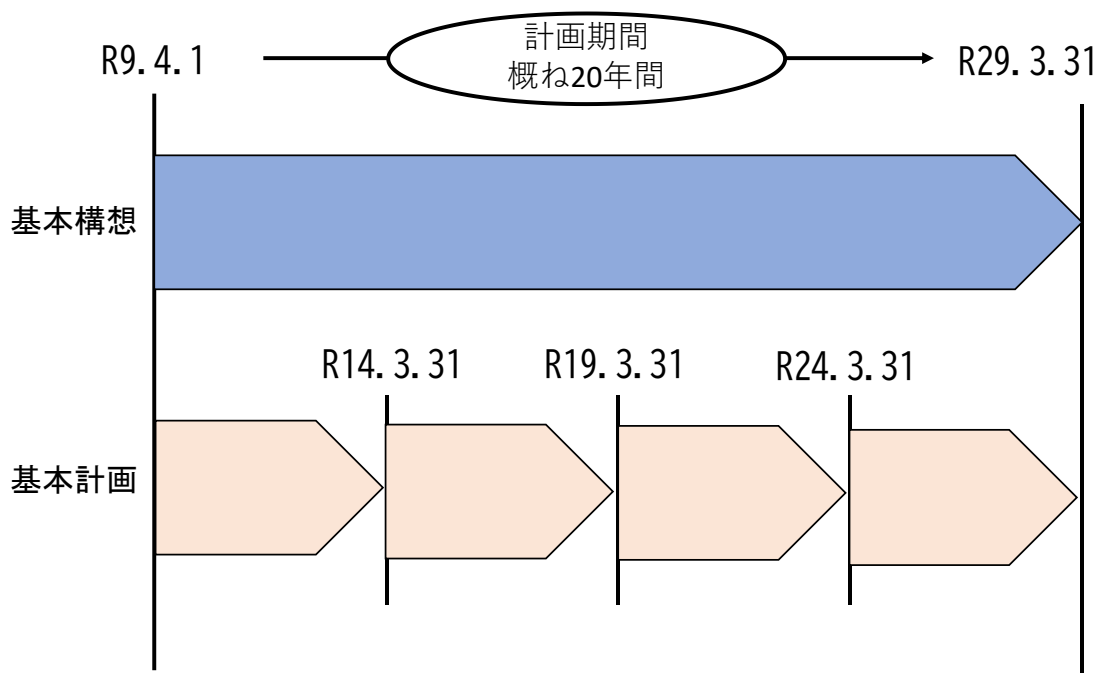
(2) 基本計画（各施策計画）

基本構想に基づき、具体的な施策を体系立てて示しています。

② 期間

基本構想の計画期間は、令和9年度（2027年度）から概ね20年間とし、社会経済状況などの変化により、策定時の状況と著しい差異が生じた場合には、必要に応じて修正や見直しを行います。

基本計画の計画期間は5年間とし、5年ごとに諸情勢の変化や実態に合わせて、見直しを行います。



第2節 社会潮流

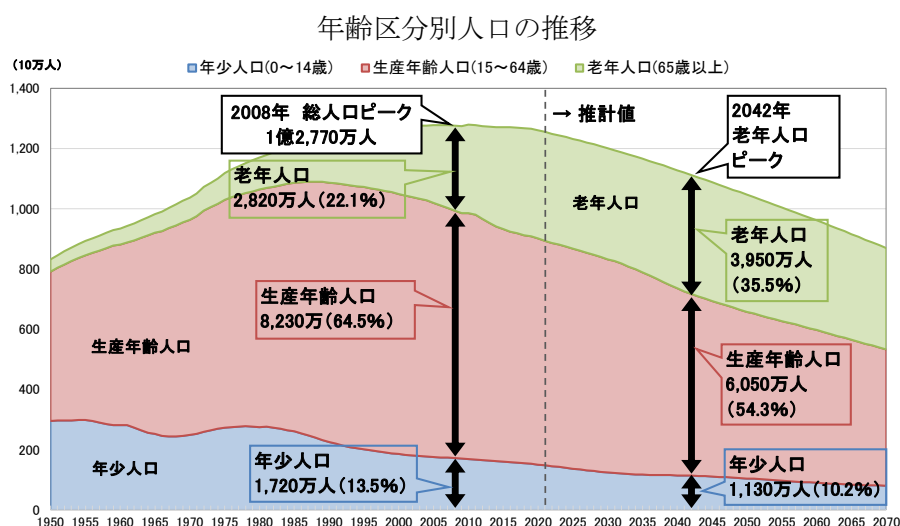
1 人口減少・少子高齢化の加速

我が国では、平成20年（2008年）をピークに人口減少が続き、少子高齢化が進むと同時に、東京への一極集中などにより、地方の労働力不足などの課題が深刻化し、医療や福祉、物流、交通、教育などあらゆる都市機能の確保に対する懸念が高まっています。

特に、出生数は過去最少を更新し続け、ピークである昭和24年（1949年）の約270万人から令和6年（2024年）には約69万人まで減少しています。

また、令和7年（2025年）には全ての団塊世代が75歳以上（後期高齢者）になるとともに、令和22年（2040年）には全ての団塊ジュニア世代が65歳以上となり、令和24年（2042年）には高齢者人口がピークに達することが見込まれております。

今後は、人口減少・少子高齢化社会を見据えたまちづくりが求められます。



（出典）総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」を参照して作成

出生数と合計特殊出生率の推移



（出典）厚生労働省「人口動態統計」

2 地域共生社会の実現

少子高齢化や人口減少、家族形態や地域コミュニティの変化により、地域社会を取り巻く環境は大きく変容しています。生活課題は複雑化・多様化し、従来の制度や分野ごとの対応だけでは十分に支えきれない状況が見られます。こうした中、高齢者や障害のある人、外国人、生活に困難を抱える人など、誰もが取り残されることなく安心して暮らし続けるためには、人と人との「つながり」を基盤とした支え合いの仕組みが一層重要となっています。

「地域共生社会」とは、支え手と受け手に分かれるのではなく、住民一人ひとりが役割と生きがいを持ち、互いに「つながり」を感じながらともに支え合う社会です。その実現に向けては、行政による公的サービスの充実に加え、地域住民や関係団体、民間事業者など多様な主体が連携し、それぞれの強みを活かして課題解決に取り組むことが求められます。



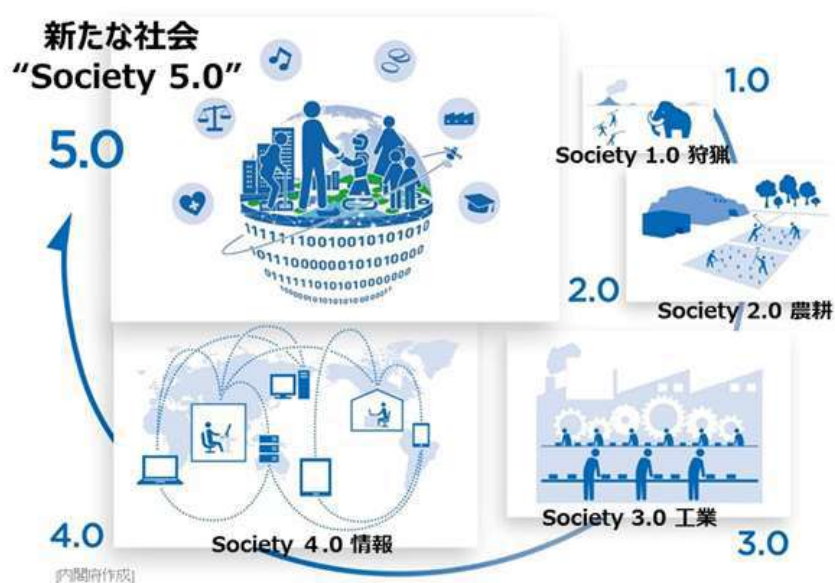
(出典) 第5期摂津市地域福祉計画

3 技術革新がもたらす社会変革

人口減少社会においては、限られた人材や資源を最大限に活用し、効率性と付加価値の向上が求められる中、AI（人工知能）やロボットの活用など、デジタル技術は急速に発展しています。

こうした技術を単なる効率化の手段として捉えるのではなく、地域課題の解決や新たな価値の創出につなげていくことが重要であり、「Society5.0※」の理念を踏まえ、持続可能で包摂的な地域社会の構築に向けた取組を推進していくことが求められています。

Society5.0 への発展イメージ



（出典）内閣府資料

※ サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会

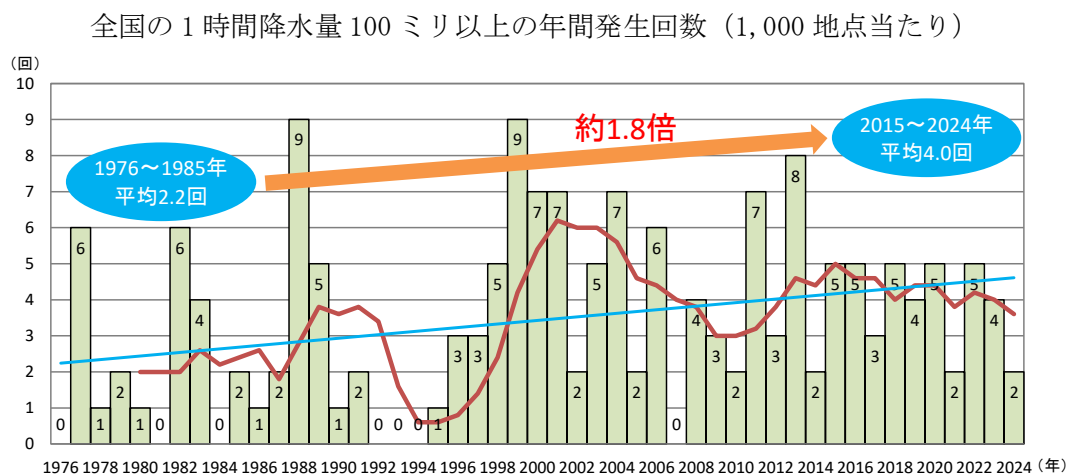
4 自然災害や社会情勢における不確実性・リスクの顕在化

近年、台風や豪雨災害の激甚化が顕著となっています。加えて、我が国においては南海トラフ地震をはじめとする巨大地震の発生が懸念されており、広域にわたる甚大な被害が想定されていることから、地域の安全・安心を脅かすリスクは一層高まっています。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に見られたように、感染症の拡大は社会経済活動に深刻な影響を及ぼし、人々の生活様式や価値観にも大きな変化をもたらしました。

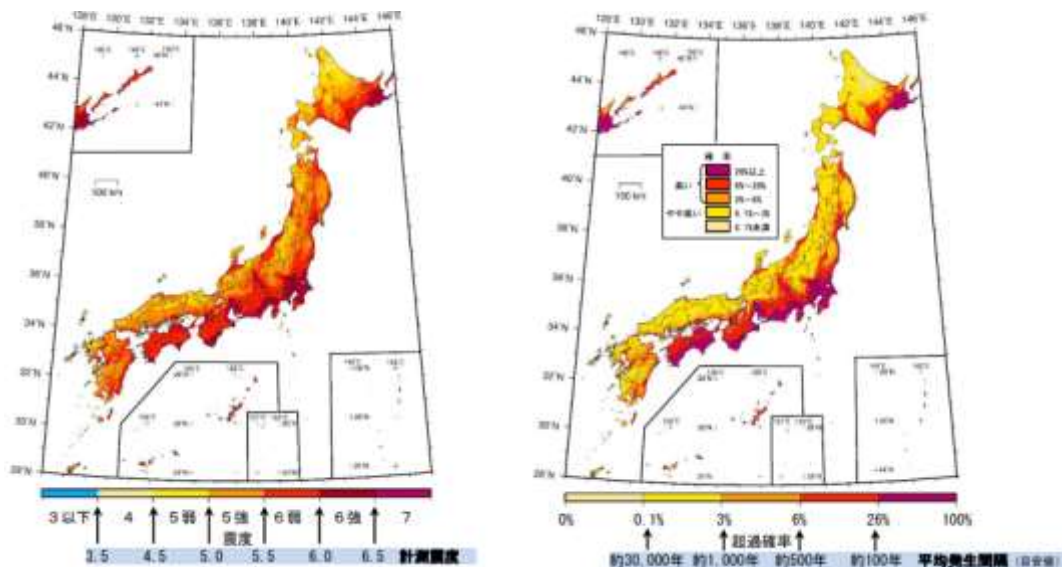
さらに、国際情勢の不安定化や資源・エネルギー価格の高騰、サプライチェーンの分断など、社会経済を取り巻く外部環境は不確実性を増しています。

これらの複合的なリスクは、我が国の経済や雇用、行政サービスの持続性にも影響を及ぼしており、こうした変化に対し迅速かつ柔軟に適応していくことが求められています。



（出典）気象庁 HP「気候変動ポータル 大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化」

確率論的地震動予測地図



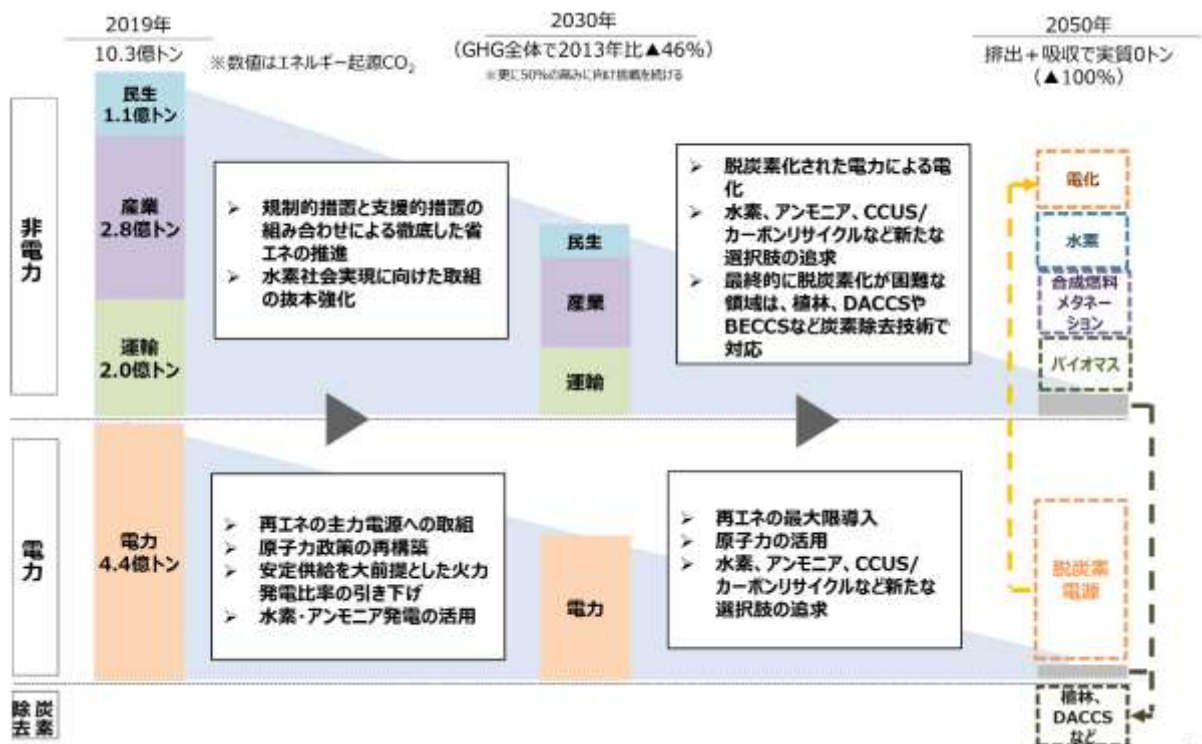
（出典）地震調査研究推進本部事務局（文部科学省研究開発局地震火山防災研究課）「全国地震動予測地図 2020 年版」

5 地球環境に関する持続可能な社会づくり

地球温暖化に伴う気候変動をはじめとする環境問題への対応は社会全体の課題となっており、とりわけ、脱炭素社会や循環型社会の推進といった取組は、国際的な潮流であると同時に、地域の持続可能性を左右する重要な要素となっています。

再生可能エネルギーの導入促進、ごみの減量化・資源化など、日常生活と密接に関わる分野において、環境に配慮した行動を地域全体へ広げていくことが求められています。

2050 年におけるカーボンニュートラル達成のイメージ



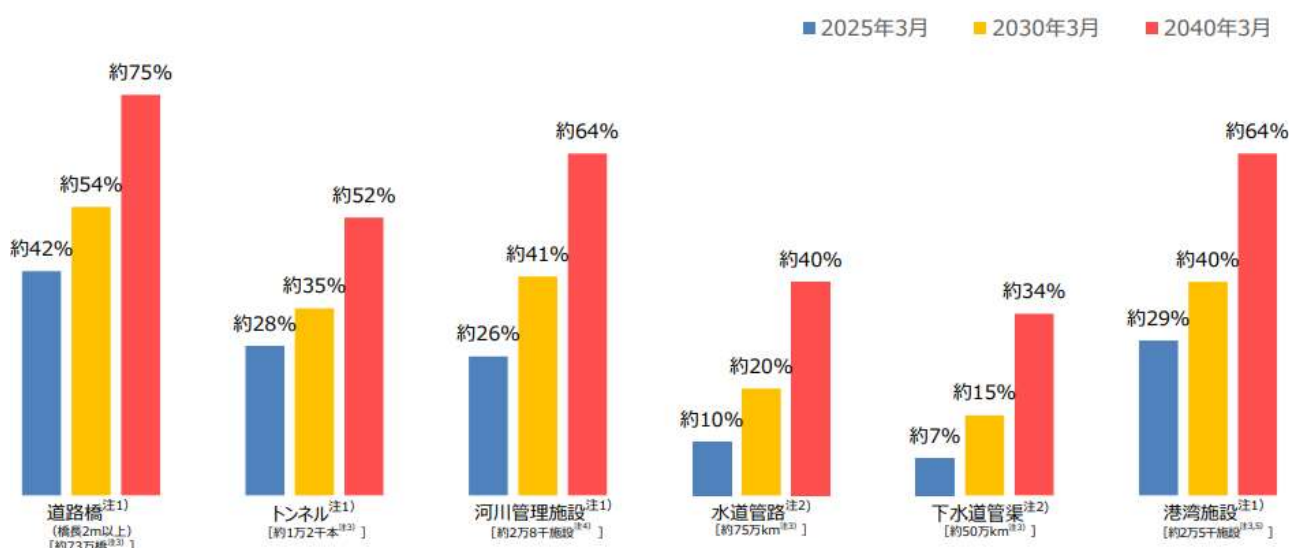
(出典) 経済産業省「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略 2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略 (概要資料)」

6 社会インフラの老朽化対策

道路、橋梁、上下水道などの社会インフラの多くが高度経済成長期以降に集中的に整備されたことから、近年、一斉に更新時期を迎えています。これらの更新や維持管理には、莫大なコストがかかることから、国・地方問わず財政を圧迫することが懸念されています。

人口構造が変化することによる施設等のニーズ変化や、新たな技術の活用による維持管理の効率化、更新費用の縮減・平準化などを踏まえた対策が求められています。

建設後 50 年以上経過する社会資本の割合



注1) 建設後50年以上経過する施設の割合については、建設年度不明の施設数を除いて算出。注2) 2024年3月時点。注3) 建設年度不明の施設数を含む。
 注4) 国：堰、床止め、閘門、水門、揚水機場、排水機場、樋門・樋管、陸門、管理橋、浄化施設、その他(立坑、遊水池)、ダム。独立行政法人水資源機構法に規定する特定施設を含む。
 都道府県・政令市：堰(ゲート有り)、閘門、水門、樋門・樋管、陸門等ゲートを有する施設及び揚水機場、排水機場、ダム。注5) 公共の港湾施設のうち、海上物流に資する主要な施設。

(出典) 国土交通省「建設後 50 年以上経過する社会資本の割合」

第3節 本市の現状と人口減少社会を見据えた主な課題

1 現状

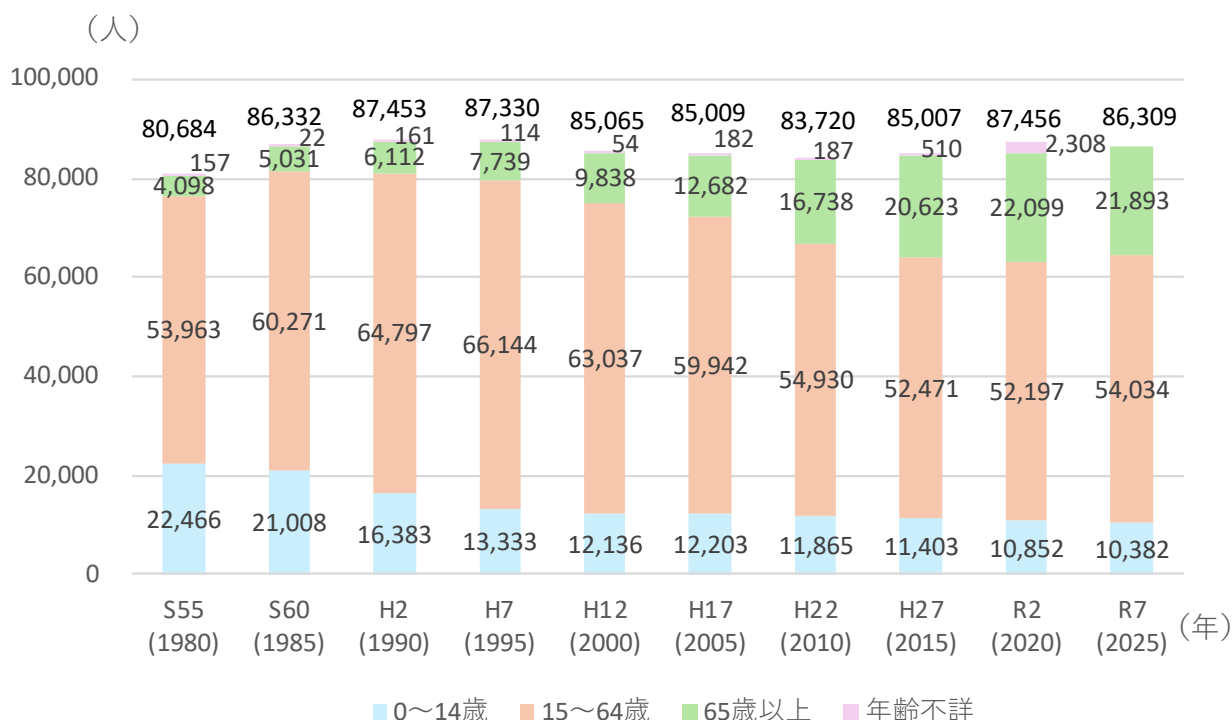
① 人口

(1) 人口動態

人口は、平成7年(1995年)以降緩やかに減少していましたが、平成27年(2015年)に再び増加に転じており、令和2年(2020年)の人口は8万7456人となっています。年齢3区分別人口では、年少人口(0～14歳)が減少傾向、生産年齢人口(15～64歳)は平成7年(1995年)をピークに減少へと転じ、令和2年(2020年)まで減少傾向が続いています。一方、老年人口(65歳以上)は増加傾向となっています。

世帯数については増加傾向で、令和6年(2024年)に43,340世帯となっている一方、世帯を構成する人員数は減少傾向で、2.00人となっています。特に、高齢者のいる世帯は年々増加傾向で、令和2年(2020年)に14,618世帯となっており、そのうち、単身世帯は4,846世帯で、平成27年から1割以上の増加がみられます。

市域全体の人口推移

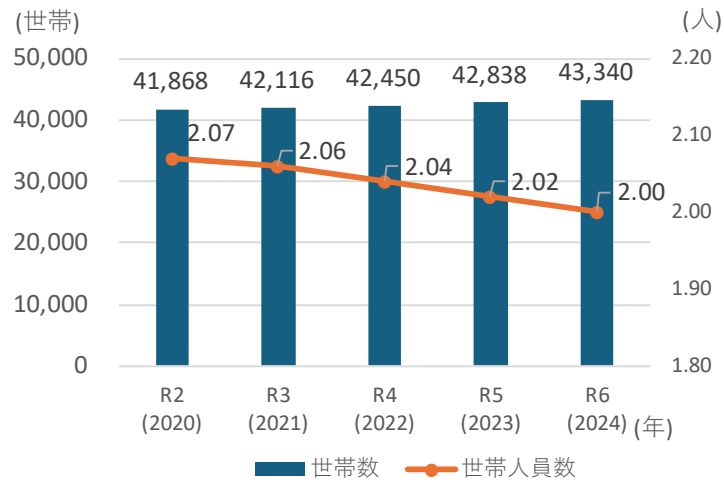


(出典) 総務省「国勢調査」 ※R7年は住民基本台帳10月1日時点を参照

市域全体の人口推移（構成比）

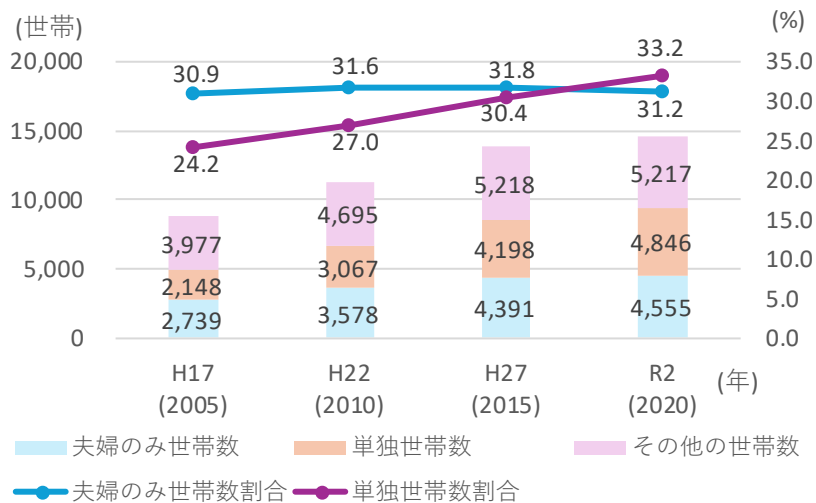
年齢区分	S55 (1980)	S60 (1985)	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)
0～14 歳	27.8%	24.3%	18.7%	15.3%	14.3%	14.4%	14.2%	13.4%	12.4%	12.0%
15～64 歳	66.9%	69.8%	74.1%	75.7%	74.1%	70.5%	65.6%	61.7%	59.7%	62.6%
65 歳以上	5.1%	5.8%	7.0%	8.9%	11.6%	14.9%	20.0%	24.3%	25.3%	25.4%

世帯数と世帯を構成する人員数の推移



（出典）住民基本台帳（各年 10 月 1 日時点）

高齢者のいる世帯数と割合

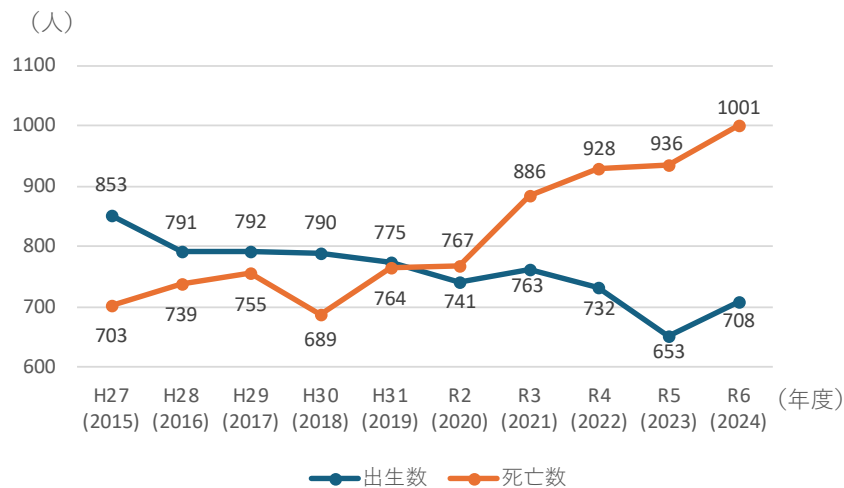


（出典）総務省「国勢調査」

自然動態

出生数は減少傾向にあるのに対し、死亡数は増加傾向であり、令和2年度（2024年度）に死亡数が出生数を上回って以降、その差は拡大しています。合計特殊出生率は、平成30～令和4年（2018～2022年）に1.51となっており、大阪府（1.29）や全国（1.33）を大きく上回っています。

自然動態の推移



（出典）摂津市「摂津市統計要覧」

合計特殊出生率の推移

摂津市					大阪府	全国
H10～14 年 (1998～2002)	H15～19 年 (2003～2007)	H20～24 年 (2008～2012)	H25～29 年 (2013～2017)	H30～R4 年 (2018～2022)	H30～R4 年 (2018～2022)	
1.46	1.41	1.50	1.57	1.51	1.29	1.33

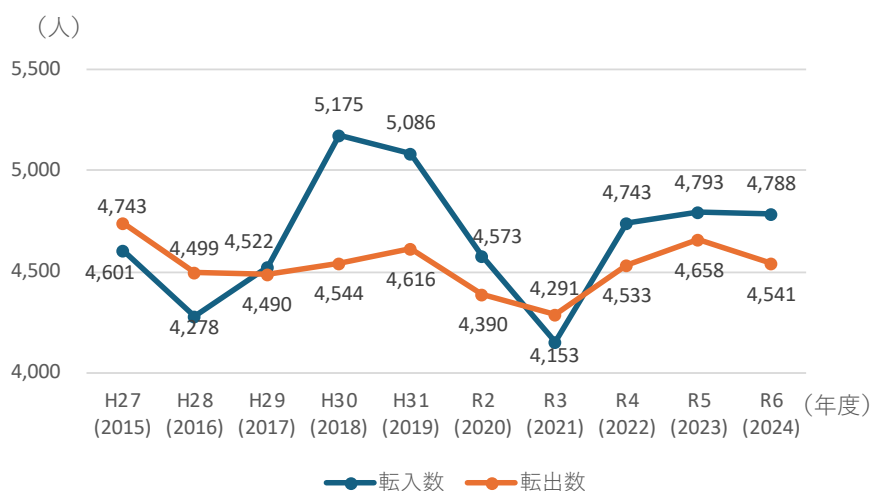
（出典）摂津市「摂津市統計要覧」

社会動態

転出数は、平成 27 年度（2015 年度）以降ほぼ横ばいで推移しています。転入数は北大阪健康医療都市（健都）における大規模開発の影響等により、平成 30 年度（2018 年度）から令和元年度（2019 年度）に大きく増加し、その後は令和 3 年度（2021 年度）を除き、転出数をやや上回る推移となっています。

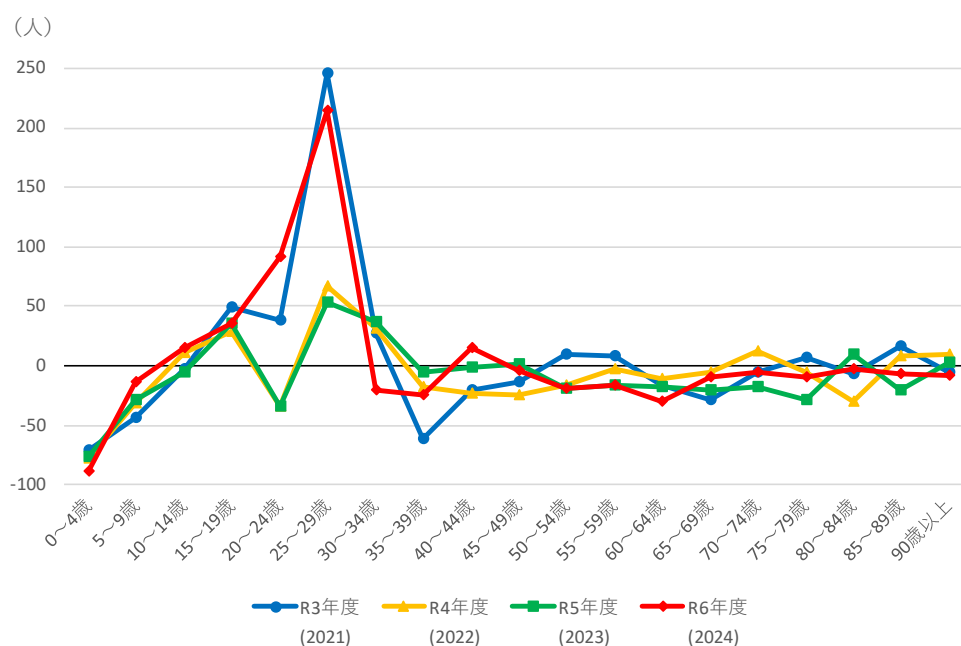
近年の年齢階層別の転出入状況は、20 歳代の転入超過が大きい一方、0 歳から 9 歳が転出超過傾向となっています。

社会動態の推移



（出典）摂津市「摂津市統計要覧」

年齢階層別の転出入の状況



（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

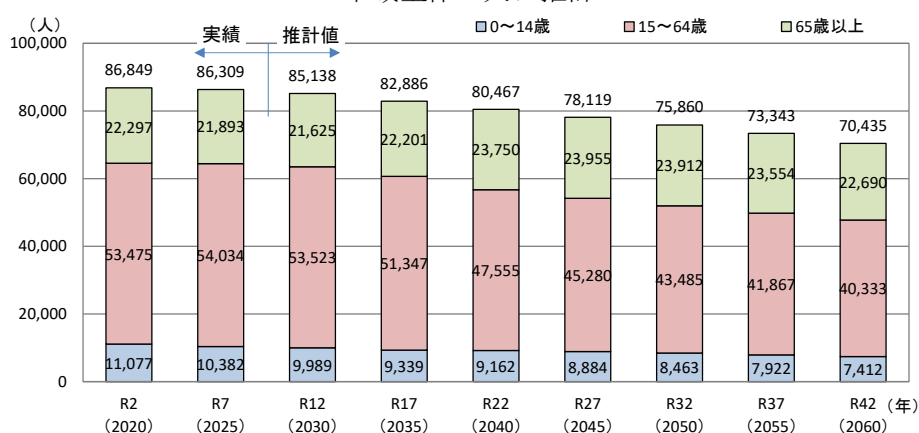
(2) 人口推計

市域全体で、令和7年度（2025年度）の8万6309人は、令和27年（2045年）に約7万8千人、令和42年（2060年）に約7万人まで減少すると見込まれます。

年齢区分別でみると、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）が減少傾向である一方、老年人口（65歳以上）は令和27年（2045年）まで増加が続き、高齢化率は令和42年（2060年）には32.2%まで上昇すると見込まれます。

また、中学校区別でみると、全国的な人口減少の流れと同様、安威川以南（第二・第四・第五中学校区）では、人口が減少すると見込まれていますが、安威川以北（第一・第三中学校区）では、概ね人口が維持される見込みです。

市域全体の人口推計

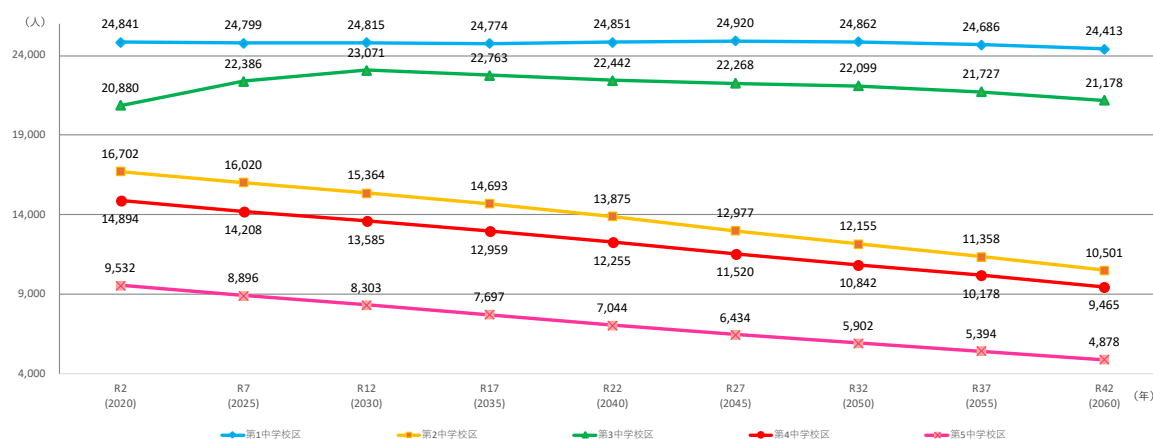


※R2年、R7年は住民基本台帳10月1日時点を参照

市域全体の人口推計（構成比）

年齢区分	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	R37 (2055)	R42 (2060)
0～14歳	12.8%	12.8%	11.7%	11.3%	11.4%	11.4%	11.2%	10.8%	10.5%
15～64歳	61.6%	62.6%	62.9%	61.9%	59.1%	58.0%	57.3%	57.1%	57.3%
65歳以上	25.7%	25.4%	25.4%	26.8%	29.5%	30.7%	31.5%	32.1%	32.2%

中学校区別の人口推計



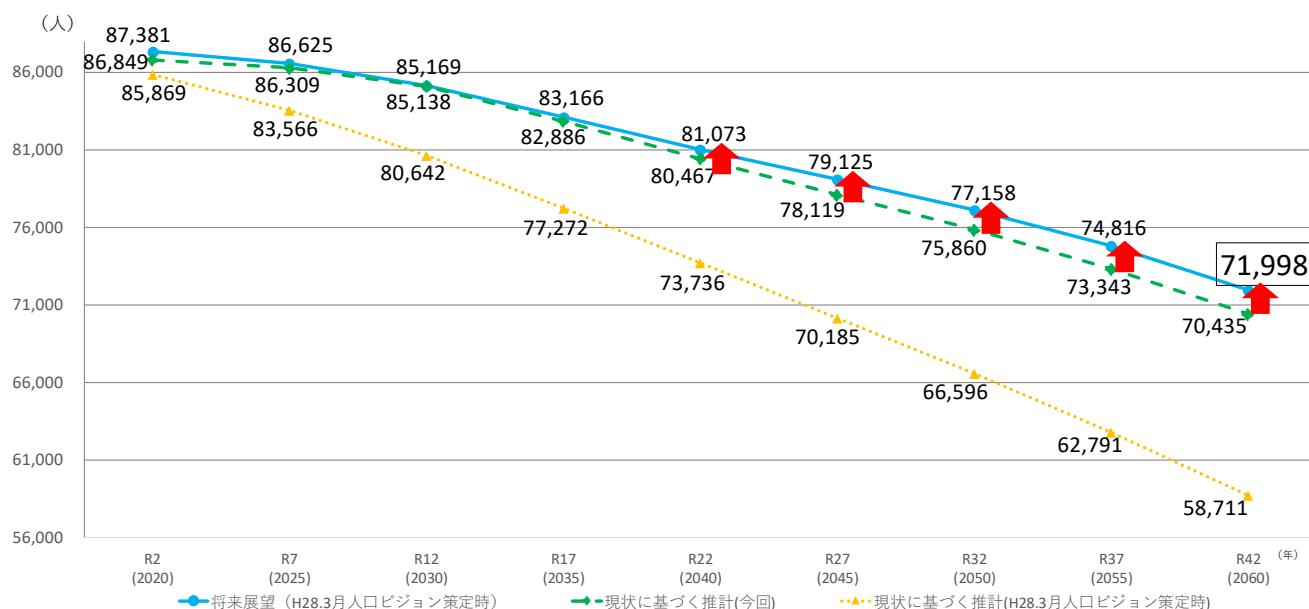
(3) 人口の将来展望

平成 28 年（2016 年）3 月に策定した「摂津市人口ビジョン」においては、令和 42 年（2060 年）の将来人口の展望を 7 万 2 千人と設定し、合計特殊出生率の向上や転出超過抑制等の課題を踏まえながら各種施策を推進してきました。

当初の推計では、将来人口は約 5 万人台まで減少すると見込まれていましたが、これまでの取組に加え、再開発の影響等もあり、直近の推計では約 7 万人へと上方修正されています。

しかしながら、全国的な人口減少の流れは依然として続いており、今後も楽観できない状況にあります。

このような中であっても、本市が持続的に発展し、地域の活力を維持していくために、引き続き将来人口 7 万 2 千人の実現を展望として掲げ、その達成に向けた施策を総合的かつ戦略的に推進していきます。

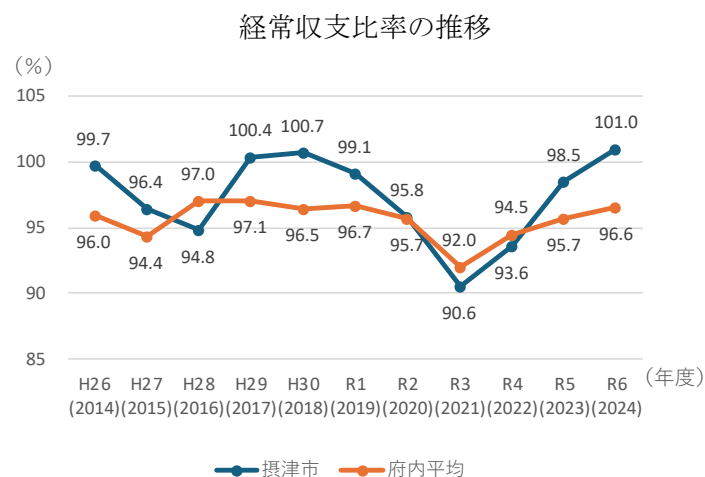


② 財政状況

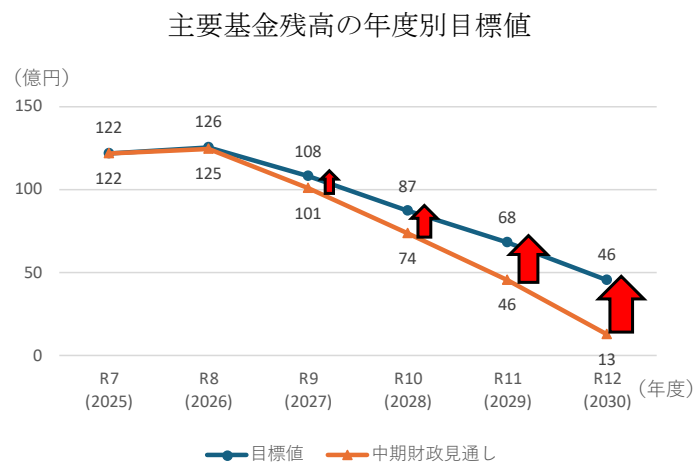
経常収支比率は、地方交付税や市税の減収等により、平成 29 年度（2017 年度）と平成 30 年度（2018 年度）に 100%を超える状況でしたが、その後は 100%以下となっています。令和 3 年度（2021 年度）については、新型コロナウイルス感染症の影響で税収が落ち込むと見込まれたこと等により地方交付税が増加し、経常収支比率は大きく改善しています。しかし、以降は 3 年連続で悪化し、令和 6 年度（2024 年度）は 100%を超え、高い値となっています。

主要基金については、吹田操車場跡地の土地売却により、平成 27 年度（2015 年度）主要基金残高は大幅に増加し、過去最高の約 146 億円となりました。その後は約 125 億円から 140 億円の範囲で推移し、令和 6 年度（2024 年度）末の主要基金残高は 129.5 億円となっています。しかし、近年の物価高騰の影響に加え、今後の行政需要や想定している普通建設事業費を踏まえると、主要基金残高は大幅に減少していく見通しです。

今後も安定した財政基盤を維持するため、財政調整基金残高 40 億円を維持することを目標値として設定し、公債費負担比率約 15%である公債費償還額 30 億円を超えない範囲での市債発行とするとともに、将来的な公債費償還額の低減をめざします。



（出典）摂津市「決算概要」、大阪府「府内市町村の財政状況」

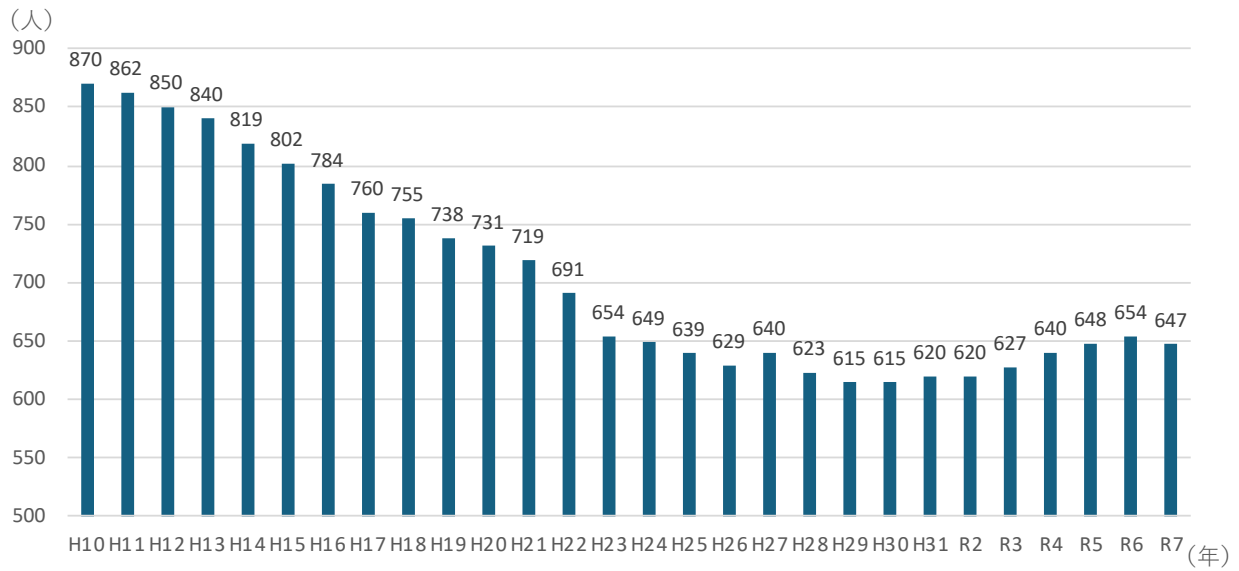


（出典）摂津市「摂津市中期財政計画」

③ 職員数

職員数については平成 10 年度（1998 年）の 870 人から減少傾向にありましたが、近年は横ばいで推移しており、令和 7 年度（2025 年度）は 647 人となっています。

将来において少子高齢化の進行により生産年齢人口（15～64 歳）が減少することから、本市においても人材確保は今以上に難しいものとなることを見込まれます。



※再任用・会計年度任用職員を除く。各年度 4 月 1 日時点。

④ 摂津市のまちづくりに関する市民意識調査の結果概要

第２期摂津市行政経営戦略策定の基礎資料とすることを目的として、市民の市政に対する満足度と期待度（市民目線の効果や成果、ニーズ）を調査しました。

調査対象	18歳以上の市民4,000人
調査期間	令和7年7月18日（金）～令和7年8月7日（木）
調査方法	無作為に抽出し、調査票を郵送により配布 郵送またはWebにより回答
回収率	35.5% 1,420人（うちWeb621人）／4,000人

摂津市行政経営戦略の体系		満足度			期待度		
まちづくりの 目標・政策	施策	平均値 (R2比較)	満足度が 高い割合	満足度が 低い割合	平均値 (R2比較)	期待度が 高い割合	期待度が 低い割合
1. 市民が元気に活動するまち		3.23			3.45		
	1 広報・広聴	3.30(+0.15)	42.0%	13.9%	3.49(+0.05)	57.1%	15.0%
	2 市民活動支援	3.16(+0.07)	31.7%	16.0%	3.41(+0.04)	50.0%	15.7%
2. みんなが安全で快適に暮らせるまち		3.04			3.48		
	3 土地利用	2.80(-0.22)	25.5%	37.3%	3.37(-0.30)	50.9%	22.4%
	4 道路・交通	2.42(-0.44)	18.9%	58.0%	3.27(-0.43)	48.9%	28.8%
	5 住宅	2.95(+0.10)	26.1%	25.9%	3.28(-0.23)	42.7%	19.4%
	6 上水道	3.29(+0.06)	50.7%	23.0%	3.58(-0.35)	58.3%	14.5%
	7 下水道	3.34(+0.20)	47.8%	17.0%	3.57(-0.17)	56.3%	11.7%
	8 防犯	3.06(+0.02)	31.2%	22.8%	3.53(-0.44)	52.7%	14.5%
	9 防災	3.02(-0.04)	27.1%	21.1%	3.50(-0.42)	51.1%	13.5%
	10 消防・救急救助	3.47(+0.03)	48.9%	7.4%	3.76(-0.18)	62.9%	5.5%
3. みどりうるおう環境を大切にするまち		3.08			3.58		
	11 環境保全	3.06(+0.07)	27.9%	19.9%	3.46(-0.18)	50.7%	14.0%
	12 ごみ処理	3.54(+0.12)	57.2%	10.1%	3.74(-0.19)	66.1%	7.0%
	13 公園・水みどり	3.15(+0.03)	40.2%	24.4%	3.55(-0.20)	57.6%	15.3%
4. 暮らしにやさしく笑顔があふれるまち		3.14			3.44		
	14 平和・人権	3.21(+0.06)	28.0%	7.6%	3.38(-0.21)	42.3%	8.9%
	15 男女共同参画	3.18(+0.15)	24.5%	8.2%	3.32(-0.12)	37.0%	10.1%
	16 地域福祉	3.10(+0.06)	28.5%	17.1%	3.42(-0.11)	48.0%	14.2%
	17 高齢福祉	3.07(-0.06)	25.7%	18.3%	3.48(-0.26)	49.2%	13.7%
	18 障害福祉	3.10(-0.03)	21.9%	12.0%	3.40(-0.28)	42.1%	10.8%
	19 子ども・子育て	3.08(-0.01)	29.9%	18.9%	3.55(-0.20)	50.8%	11.3%
	20 健康	3.22(+0.02)	30.8%	10.3%	3.50(-0.51)	48.3%	9.1%
5. 誰もが学び、成長できるまち		3.09			3.44		
	21 生涯学習	3.11(+0.10)	24.6%	13.5%	3.41(-0.02)	44.3%	11.3%
	22 学校教育	2.99(-0.16)	23.6%	20.8%	3.47(-0.33)	48.6%	12.8%
	23 文化・スポーツ	3.17(+0.03)	29.7%	12.5%	3.44(-0.05)	46.0%	10.5%

6. 活力ある産業のまち		2.98			3.33		
	24 産業振興	3.02(-0.09)	20.8%	16.3%	3.37(-0.22)	42.1%	11.7%
	25 就労・消費者支援	2.95(-0.10)	15.3%	17.9%	3.29(-0.25)	36.2%	13.3%
7. 計画を実現する行政経営		2.93			3.32		
	26 シティプロモーション	2.88(-0.38)	18.0%	25.0%	3.31(-0.33)	40.7%	16.8%
	27 デジタル化	2.98(+0.04)	23.4%	21.1%	3.38(-0.30)	45.8%	13.8%
	28 人材育成	2.96(-0.02)	13.5%	15.2%	3.30(-0.22)	36.7%	12.2%
	29 中期財政・FM	2.91(+0.01)	14.1%	18.8%	3.29(-0.35)	37.9%	13.6%

※ 満足度の平均点は「十分満足」5点、「ある程度満足」4点、「どちらともいえない」3点、「やや不満」2点、「とても不満」1点として、平均点を算定。期待度の平均点は「とても期待している」5点、「ある程度期待している」4点、「どちらともいえない」3点、「あまり期待していない」2点、「期待していない」1点として、平均点を算定。

※ () 内は令和2年度(前回)調査結果との増減差

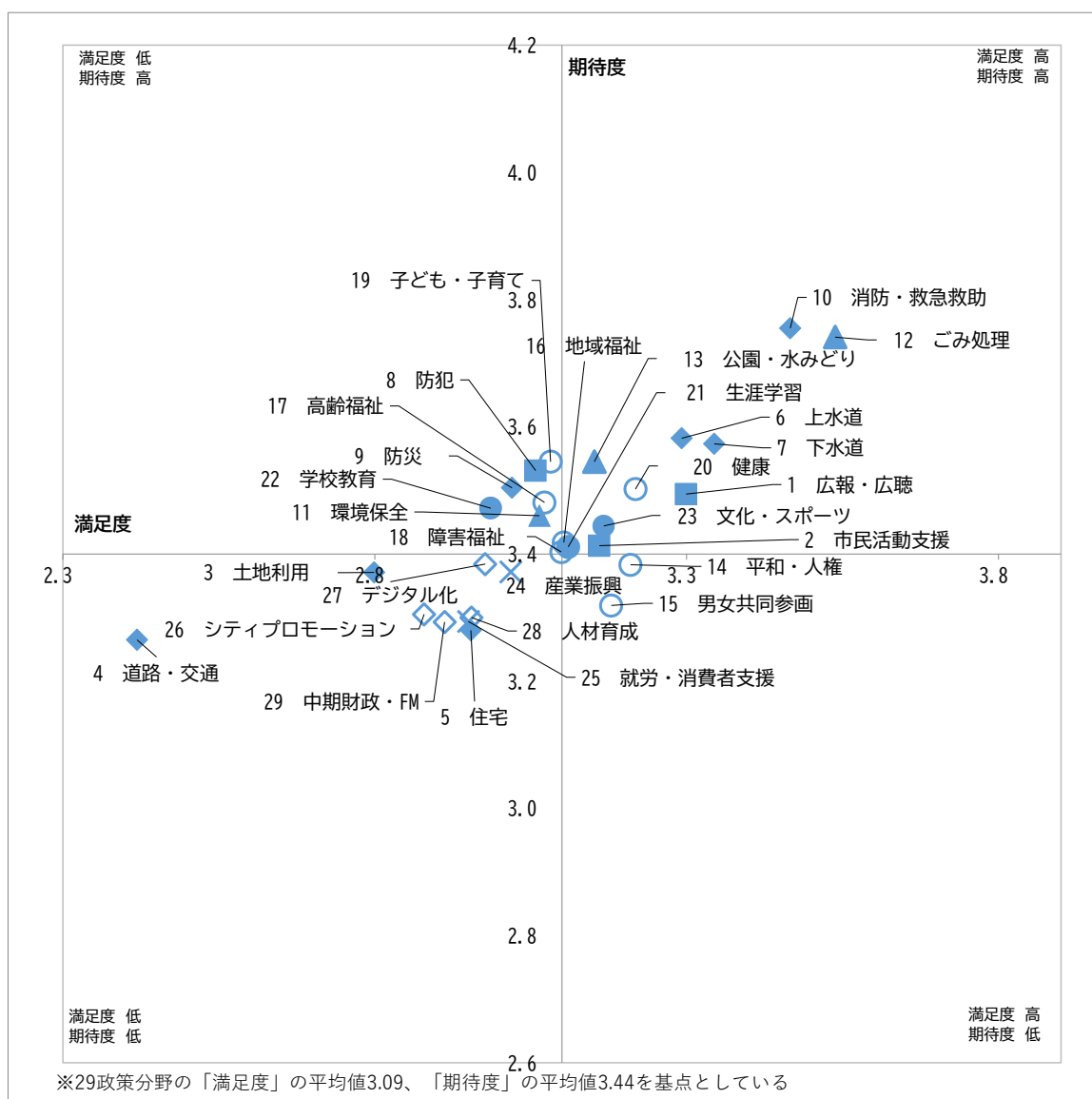
[表の見方]

○満足度が高い:「5 十分満足」「4 ある程度満足」の計

○満足度が低い:「2 やや不満」「1 とても不満」の計

○期待度が高い:「5 とても期待している」「4 ある程度期待している」の計

○期待度が低い:「2 あまり期待していない」「1 全く期待していない」の計

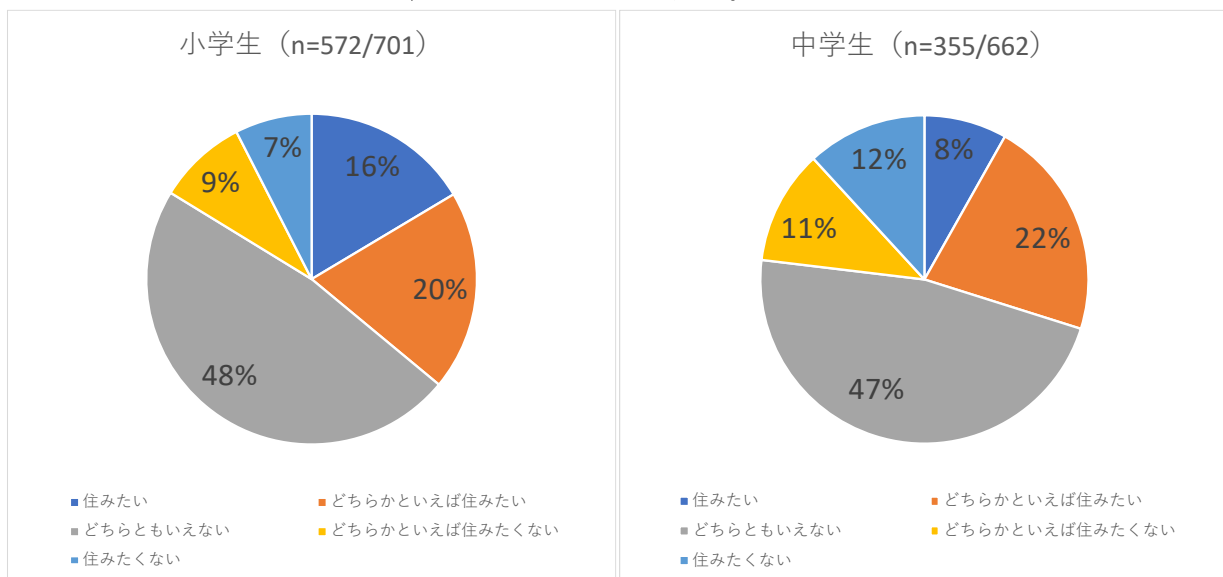


⑤ 小・中学生アンケートの結果概要

第2期摂津市行政経営戦略策定の基礎資料とすることを目的として、将来を担っていく子どもたちが現在の摂津市をどのようにとらえているのか、将来どのようなまちになってほしいかなどについて、意見やアイデアを調査しました。

調査対象	市内小学校6年生、中学校2年生
調査期間	令和7年9月～令和7年10月末まで
調査方法	Webによるアンケート
回収率	68.1% 928人／1,363人

Q. 大人になっても摂津市に住みたいと思いますか。



Q. 摂津市のまちなりの良いと思うところ（好きなおとこ）を教えてください。

カテゴリー	件数	主な意見
優しい・挨拶・地域のつながり・助け合い	196	みんなが優しくて親切。あたたかい人が多い。助け合える。
交通安全・交通利便性	151	事故があまりない。都会へのアクセスがよい。
公園・遊び場・娯楽がある	146	遊べる場所、児童センター、新幹線公園、明和池公園がある。
買い物・商業施設が充実	123	スーパーやコンビニ、美味しいお店がたくさんある。
治安が良い・犯罪がない	92	治安がよい。暴力追放宣言都市。
自然・緑豊か・環境保全	66	自然豊かで、川がきれい。木や花など植物が多い。
ほどよい規模のまち	64	都会でもなく田舎でもないところ。バランスがよい。
祭り・イベントがある	60	お祭りなど地域のイベントがたくさんある。
魅力・特色ある名物	40	鳥飼なすが貴重。セッピィ。まちの形がハート。
子育て・教育が充実	40	子どものサポートが手厚い。ランドセルの無料配布。
住環境がよい	39	静かなところ。住宅がたくさん。住環境がよい。
きれい・ごみがない・清潔	35	街がきれい。ゴミが少ない。景色がよい。
活気・賑わい・楽しい	25	活気があって、にぎやか。みんなが元気でいられる。
都市基盤が整っている	21	道が舗装されている。駅前が充実している。
愛着・誇り	8	生まれ故郷。とにかく全部好き。本田圭佑が出身。
災害に強い	7	地震などの災害が少ない。淀川に大きい堤防がある。
その他	20	親が住んでいる。豊かなまち。病院が多い。工場が多い。
わからない	6	
ない	65	
無回答	33	
計	1,237	

Q. 摂津市のまちの良くなってほしいと思うところ（嫌いなところ）を教えてください。

カテゴリー	件数	主な意見
公園・遊び場・娯楽の充実	200	公園があまりない。遊べる、運動できる施設を増やしてほしい。
買い物・商業施設の充実	159	ショッピングモールがない。飲食店が少ない。
規範を守る	159	ポイ捨てがある。川が汚い。ゴミが多い。
防犯対策	121	治安が悪い。夜が暗い。夜中にバイクがうるさい。
景観・衛生・自然環境の管理・保全	83	川や道路、まちが汚い。緑を増やしてほしい。騒音・振動。
交通安全・交通利便性	78	歩道が狭い。自転車のマナーが悪い。交通が不便。
都市基盤、住環境の整備	74	都会になってほしい。道路が狭くてガタガタ。水がおいしくない。
教育・子育て支援の充実	62	もう少し教育を充実させてほしい。部活を廃止しないでほしい。
魅力・特色ある名物を創生する	52	これといったものがない。魅力となる観光スポットが少ない。
防災対策	13	淀川が氾濫すると危ない。
地域の交流・結びつき	11	もっと助け合いをしてほしい。人々の交流を増やしてほしい。
人権・いじめ対策	5	いじめを減らしたい。嫌な思いをする人を少なくしてほしい。
その他	26	まちが小さい。坂が多い。減税。
ない	128	
わからない	9	
無回答	38	
計	1,218	

Q. 摂津市のまちで「自慢できるもの」や「誇りに思うもの」を教えてください。

カテゴリー	件数	主な意見
魅力・特色ある名物（鳥飼なす）	172	鳥飼なす。
ない	124	
優しさ・挨拶・地域のつながり・助け合い	95	みんなが優しい。人が温かい。みんなが支え合っている。
魅力・特色ある名物	81	まちがハート形。セツピィ。
買い物環境・商業施設	67	スーパーやコンビニが多い。美味しいお店がたくさんある。
公園・遊び場・娯楽	63	公園が多い。遊ぶ場所がある。
交通安全・交通利便性	60	交通事故が少ない。交通が便利。
祭り・イベント・賑わい	55	にぎやか。祭りが多い。みんなが元気。
子育て・教育環境	47	ランドセルが無料。学校が多い。子育て支援が多い。
治安が良い・犯罪がない	46	治安が良い。あまり事件がない。平和。
ほどよいまちの規模	40	都会すぎない。騒がしくない。
自然・緑豊か・環境保全	40	自然が多い。緑が多い。川が多い。
都市基盤、住環境の整備	38	住みやすい。駅周辺が整っている。便利な施設がある。
地域に縁ある有名人	30	本田圭佑。鈴木紗理奈。立浪。
きれい・ごみがない・清潔	16	まちがきれい。道がきれい。
災害に強い	10	災害が少ない。
その他	21	工場が多く、産業が盛ん。病院が多い。
わからない	17	
無回答	53	
計	1,075	

Q. 摂津市は将来どのようなまちになってほしいですか。

カテゴリー	件数	主な意見
災害に強い	147	災害に強いまち。防災意識が高いまち。
安心・安全	117	子どもからお年寄りまでみんなが安心して暮らせるまち。
自然・緑豊か・環境保全	101	自然豊か、緑豊かなまち。生物がたくさんいるまち。
助け合い・支え合い	97	みんなで支え合い、助け合えるまち。
活気・賑わい・楽しい	74	みんなが楽しいと思えるまち。にぎやかになってほしい。
治安が良い・犯罪がない	66	治安がよくなってほしい。不審者や事件がないまち。
住みたい・住みやすい	57	静かなまち。暮らしやすいまち。なんでも揃うまち。
子育て・教育が充実	56	安心して子育てができるまち。子どもがのびのび育つまち。
きれい・清潔	54	美しく清潔なまち。
規範が守られている	51	ゴミが落ちていない。マナーやルールを守る人が多いまち。
優しい・挨拶・地域のつながり	50	優しいまち。人が温かい。思いやりのできるまち。
公園・遊び場・娯楽がある	49	公園が多い。楽しい施設がたくさんあって、にぎわっているまち。
買い物・商業施設	46	買い物ができる所が多くなってほしい。経済が活性化してほしい。
都市基盤の整備	44	今よりもっと都会になってほしい。移動しやすいまち。
魅力・特色ある名物	41	市の名物を作ってほしい。みんなが興味を持つようなまち。
平和・人権擁護	39	平和なまち。いじめ、差別のないまち。
財政・豊か	22	豊かなまち。お金問題をなんとかしてほしい。
その他	44	みんなが一人ひとりがんばれる。
わからない	6	
ない	14	
無回答	40	
計	1,215	

⑥ せつつの未来を考えるワールドカフェの結果概要

第2期摂津市行政経営戦略策定の基礎資料とすることを目的として、せつつの未来を考えるワールドカフェを開催しました。

	日時	場所	参加人数
①安威川以北版	令和7年11月15日（土）	摂津市立コミュニティプラザ 3階コンベンションホール（1）	36人
②安威川以南版	令和7年11月16日（日）	摂津市立鳥飼北小学校 体育館	20人
③市域全体版	令和7年11月29日（土）	摂津市役所 7階講堂	60人

① 安威川以北版、② 安威川以南版

最初の「問い」

- あなたにとって「よりよい暮らし」「幸せな暮らし」とは何ですか？
「よりよい」とは？「幸せ」とは？ など、テーブルの仲間といっしょに問いで問いを深めながら、身近なことから具体的にお話してください。

2番目の「問い」

- あなたにとって「よりよい暮らし」「幸せな暮らし」とは何ですか？
そのために「残したい」「みがきたい」「生み出したい」と思うモノ・コト・価値などもあわせてお話してください。

3番目の「問い」

- 「よりよい暮らし」「幸せな暮らし」について、たくさんお話しいただきました。
そのうち「私たち」が共感できることとして、どんなことがありますか？
また、そうした「暮らし」をつくっていくために、あなたが、あなた自身や仲間といっしょに「行動」できることはなんですか？

ハーベストの問い

- あなたは、10年先、20年先の摂津市がどんなまちになっているといいと思いますか？
10年先、20年先の摂津市に暮らして「よりよい暮らし」「幸せな暮らし」を実感するために「残したい」「みがきたい」「生み出したい」と思うモノ・コト・価値などもあわせて教えてください。

③ 市域全体版

最初の「問い」

- 安威川以北・以南それぞれのハーベストの内容について、「結構ちがうなあ」と思ったことや「やっぱりそうだなあ」と共感したことは何ですか？

2番目の「問い」

- 先ほどのラウンドのうち、「やっぱりそうだなあ」と共感できたことは、どうして共感できたのですか？
また、それを実現していくために、「私」や「私たち」が明日からでもできることは何ですか？

3番目の「問い」

- 「10年先、20年先の摂津市民代表」の立場から、「摂津に暮らすなら、こんな幸せが実感できる！」と主張・宣伝してみてください。

ハーベストの問い

- 10年先、20年先、摂津市がどんなまちになっていたら私たちは幸せに暮らせると思いますか？
こんなまちになってほしいと思う摂津市の将来の「まちや人の姿」を、自由に描いてください。

	①	②	③	主な意見
交流・つながり	24	12	39	人とのつながりを大切にする社会。居場所づくり。地域のつながり、声掛け、助け合い。
子ども・子育て・若者	19	5	28	教育水準の向上。教育に力を入れるまちになってほしい。子育て人口が増えてほしい。
高齢者・弱い立場への配慮	2	0	13	子どもから高齢者、障害者いろんな方がワイワイつながっているまち。1人暮らしの高齢者に優しい移動手段を増やす。
交通・移動・アクセス	10	3	22	交通の便が良くなり、会いたい人、行きたい場所へフットワーク軽く移動できるまち。住んでいる人が便利なまち。
商業・にぎわい・経済	17	0	14	人が多くにぎわいがあり、活気のあるまちになってほしい。産業の発展。大きい商業施設がほしい。
医療・健康	3	3	4	みんなが健康で自分の意見を言い、他人の意見を聞き、知見を広げられるまち。日々の生活を健康に安心してすごせる。
安心・安全・防災	2	4	6	安心、安全なまちで「自分のやりたいこと」ができるまち。治安が良く、住みやすさを重視したまち。
行政・ガバナンス・市民参加	14	11	15	地域住民、市民の声を聴く行政。色々な人の意見が反映されたまち。想いを受け入れ、実現できる市になってほしい。
環境・景観・暮らしやすさ	9	4	11	緑豊かな自然環境。ゆったりした時間を過ごせてホッとできるまちになれば、他のまちにない特徴になる。
地域固有資源・特徴	5	4	13	企業と通りすがりの人が「すぐ」話せるコミュニティがあるまち。他の所にはない独自性がほしい。
その他	9	14	10	
計	114	60	175	



2 人口減少社会を見据えた主な課題

人口減少社会が進行していく中、今後も持続可能なまちづくりを進めていくために、組織横断的な対応が必要となる主な課題を示します。

① 地域コミュニティの活性化

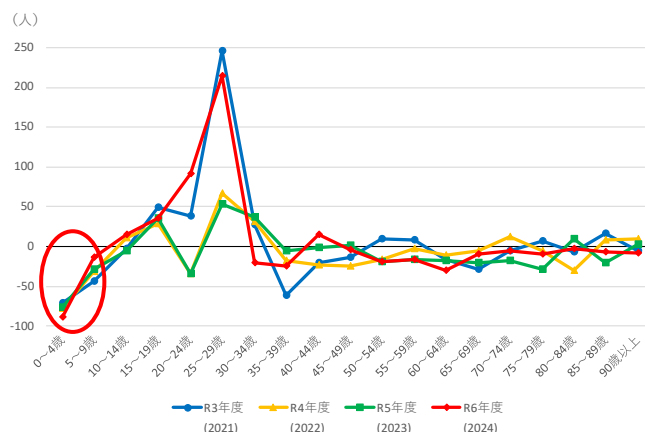
単身世帯や高齢世帯の増加等により、地域のつながりが求められる一方、人と人とのつながりや支え合いが希薄化しています。地域コミュニティの柱である自治会や町会が減少していく中、これまでの地域活動の在り方を見直し、地域コミュニティをどのように活性化していくのか、対応が求められています。



(出典) 摂津市協働のまちづくり推進条例 (概要リーフレット)

② 子育て世帯転出超過の解消

近年の年齢階層別の転出入状況から、0歳～9歳の転出超過が著しく、いわゆる子育て世帯が流出しています。安心して子どもを産み育てられる、子育て世帯が住みやすいまちづくりによって転出をくい止め、転入を促進する必要があります。

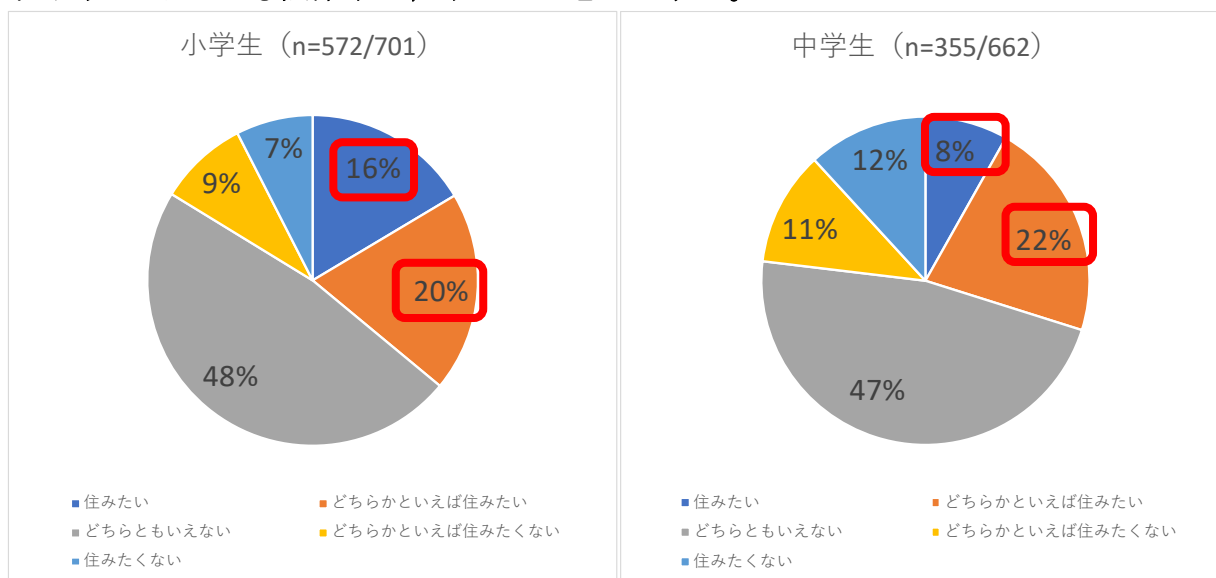


(出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

③ まちに対する愛着や誇りの醸成

小・中学生アンケート結果をはじめとする市民の声から、まちの魅力創出に課題が見受けられます。行政だけでなくみんなで、暮らしやすく、にぎわいあるまちづくりを進めることによって、まちに対する愛着や誇りを醸成し、選ばれ続けるまちを実現することが求められています。

Q. 大人になっても摂津市に住みたいと思いますか。

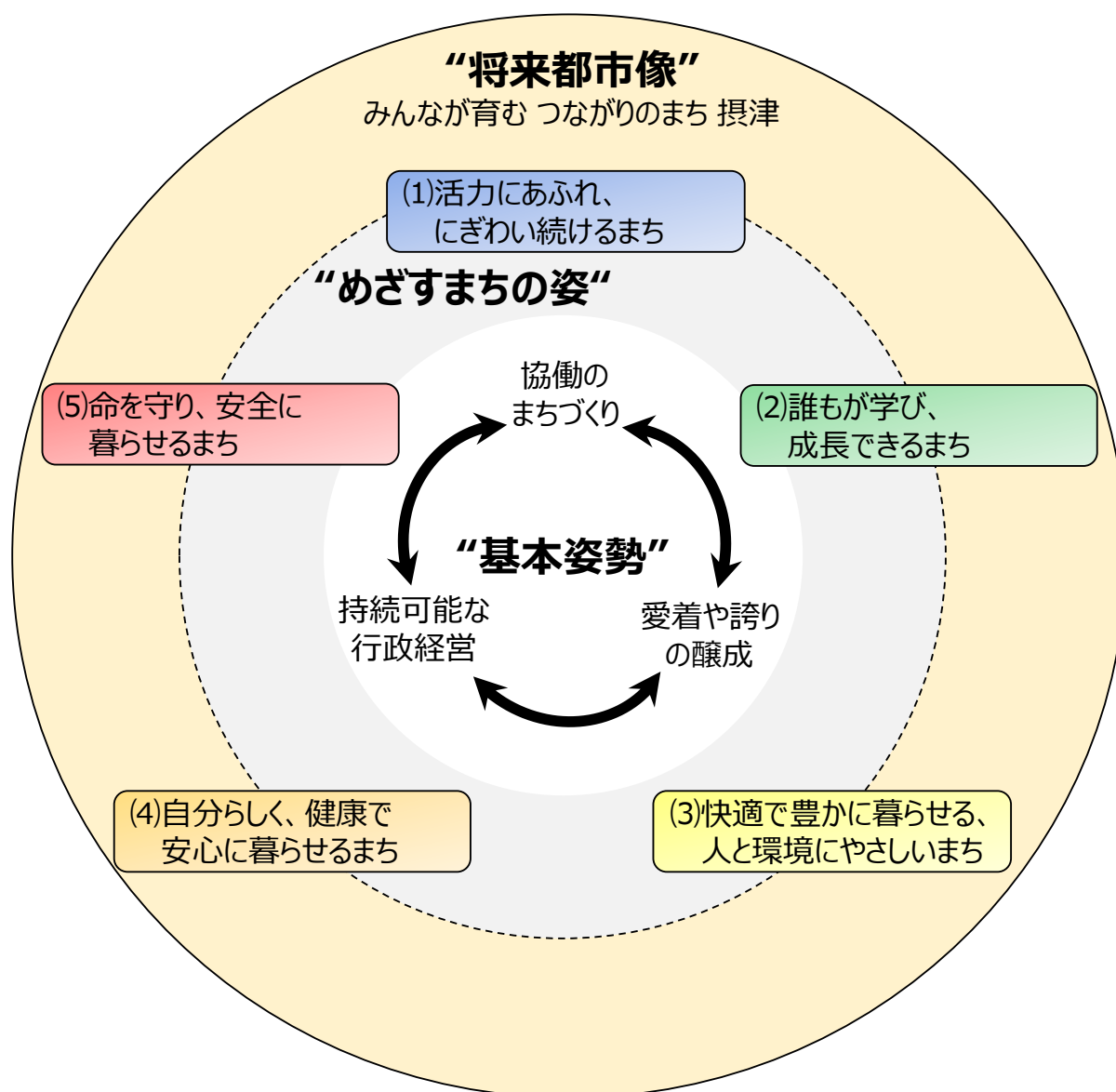


Q. 摂津市のまちで「自慢できるもの」や「誇りに思うもの」を教えてください。

カテゴリー	件数	主な意見
魅力・特色ある名物(鳥飼なす)	172	鳥飼なす。
ない	124	
優しさ・挨拶・地域のつながり・助け合い	95	みんなが優しい。人が温かい。みんなが支え合っている。
魅力・特色ある名物	81	まちがハート形。セツピィ。
買い物環境・商業施設	67	スーパーやコンビニが多い。美味しいお店がたくさんある。
公園・遊び場・娯楽	63	公園が多い。遊ぶ場所がある。
交通安全・交通利便性	60	交通事故が少ない。交通が便利。
祭り・イベント・賑わい	55	にぎやか。祭りが多い。みんなが元気。
子育て・教育環境	47	ランドセルが無料。学校が多い。子育て支援が多い。
治安が良い・犯罪がない	46	治安が良い。あまり事件がない。平和。
ほどよいまちの規模	40	都会すぎない。土地が安い。騒がしくない。
自然・緑豊か・環境保全	40	自然が多い。緑が多い。川が多い。
都市基盤、住環境の整備	38	住みやすい。駅周辺が整っている。便利な施設がある。
地域に縁ある有名人	30	本田圭佑。鈴木紗理奈。立浪。
きれいな・ごみがない・清潔	16	まちがきれい。道がきれい。
災害に強い	10	災害が少ない。
その他	21	工場が多く、産業が盛ん。病院が多い。
わからない	17	
無回答	53	
計	1,075	

第2章 基本構想

第1節 基本構想の構成



将来都市像

まちづくりの理念、本市のめざす将来像を示します。

めざすまちの姿

将来都市像を実現するためのまちづくりの基本的な方向性として、市民の声から導いた組織横断的な目標を掲げます。

基本姿勢

めざすまちの姿を実現するため、社会潮流や本市の現状等から共通して踏まえるべき事項を設定します。

第2節 将来都市像

これまで、まちづくりを進めるにあたり、昭和46年（1971年）の「摂津市民憲章」の制定をはじめ、6つの「都市宣言」を行ってきました。

「摂津市民憲章」は市民が共有するまちづくりの理念を示し、6つの「都市宣言」は、時々の課題を捉えて、まちづくりを進めていく姿勢を示したものです。これらは今後も恒久的なまちづくりの理念として尊重し、本市に関わるみんなで共有することにより将来都市像の実現を目指します。

第4次摂津市総合計画から15年以上引き継いできた将来都市像「みんなが育む つながりのまち 摂津」には、地域の交流や人と人とのつながりを大切にし、多様な価値観の中で互いを認め、支え合い、みんなが手を取りあって、「ほっと」できるつながりのまちを育むという想いが込められています。

少子高齢化や核家族化、単身世帯の増加など社会構造の変化や、ライフスタイル・価値観の多様化などにより、人と人とのつながりが希薄化してきている中、「市民一人ひとりが幸せを実感できる“Well-Being”なまち」を実現するためには、この想いをさらに引き継いでいく必要があります。

第2期摂津市行政経営戦略においても引き続き将来都市像として掲げ、その実現に向けて歩み続けます。

みんなが育む つながりのまち 摂津

自分たちの夢を、自分たちの力で実現するまちにしていきます。

摂津市に関わるみんなが、思いを語り、行動し、力を合わせることで、摂津市を「住み続けたいと思える、元気で“ほっ”とする温かいまち」に育てていきます。

第3節 めざすまちの姿

(1) 活力にあふれ、にぎわい続けるまち

人々が住み、働き、学び、訪れる中で多くの活動や交流が生まれ、まち全体に活力が行き渡るとともに、長い歴史の中で育まれてきた地域資源を活かし、人々を惹きつけ、にぎわい続けるまちを目指します。

【共感できる要素】



【WC・小中学生アンケートによる市民の声】

10年先、20年先の摂津市はどんなまちになってほしい？



- ・楽しく元気に暮らせる
- ・にぎやかになってほしい
- ・活気あふれる
- ・住んで働いて学んで楽しいまち
- ・学生が遊べるところが多い



- ・産業の発展
- ・大きい商業施設
- ・人が多くにぎわいがあり、活気のあふれるまち

- ・明るいまちになってほしい
- ・あたたかいまち
- ・親しみやすい



- ・摂津市がすごいなと思えるように
- ・イベントが多くてみんなで楽しめる
- ・他にない独自性
- ・個々の魅力を表現できる



- ・便利な公共施設があるまち
- ・楽しい施設がいっぱいあって、にぎわっているまち
- ・もっと色々な施設をつくってほしい



- ・地域の交流を強く
- ・優しいまち
- ・人とのつながりを大切にする社会
- ・交流を深めることができる居場所づくり

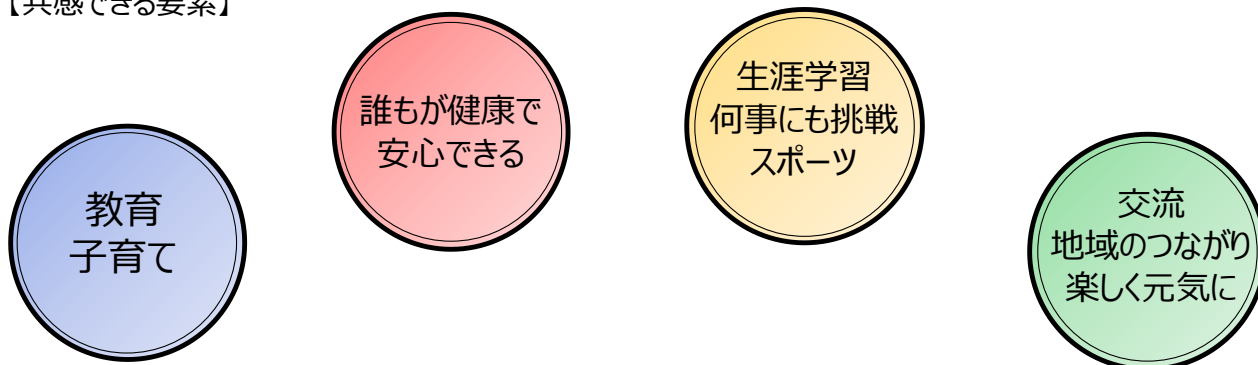


- ・豊かなまち
- ・財政がしっかり

(2)誰もが学び、成長できるまち

学校教育はもとより、誰もが生涯にわたって学習や文化・スポーツ活動などに挑戦し、その知識や技能を生かして充実した毎日を過ごすことができるまちを目指します。

【共感できる要素】



【WC・小中学生アンケートによる市民の声】

10年先、20年先の摂津市はどんなまちになってほしい？

- ・子どもがのびのび育つまち
- ・子ども達が自分の個性や得意なことに夢中になれる
- ・教育に力を入れるまち
- ・学力格差のないまち



- ・地域の交流を強く
- ・優しいまち
- ・人とのつながりを大切にする社会
- ・交流を深めることができる居場所づくり



- ・やりたいことができる
- ・何事にも挑戦する
- ・みんなが一人ひとりがんばれる



- ・安心安全のまち
- ・子どもからお年寄りまでが安心して暮らせる
- ・日々の生活を健康に安心してすごせるまち



- ・楽しく元気に暮らせる
- ・にぎやかになってほしい
- ・活気あふれる
- ・住んで働いて学んで楽しいまち



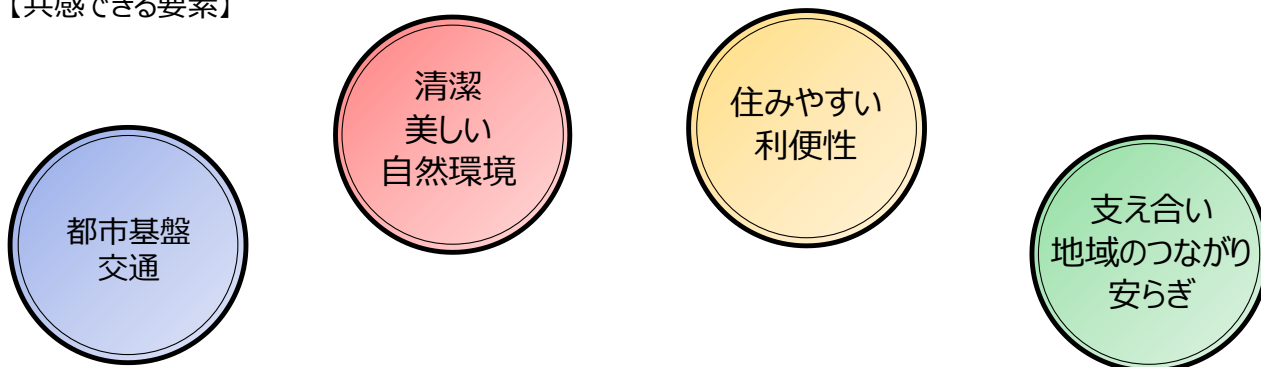
- ・安心してスポーツができるところがほしい
- ・ボール遊びができて元気に遊べる



(3)快適で豊かに暮らせる、人と環境にやさしいまち

都市基盤が充実し生活の利便性が確保されるとともに、川やみどりなど恵み豊かな自然がもたらす安らぎを享受できるまちを目指します。

【共感できる要素】



【WC・小中学生アンケートによる市民の声】

10年先、20年先の摂津市はどんなまちになってほしい？



- ・移動しやすいまち
- ・買い物や通院の交通手段
- ・高齢者に優しい移動手段
- ・道をもっと広く、歩きやすく



- ・住んでいる人が便利なまち
- ・住みやすさに特化
- ・アクセスやインフラが充実

- ・美しく清潔なまち
- ・道がきれい



- ・いろいろな世代が住みやすいまち
- ・静かなまち
- ・都会と田舎の良い所を共存



- ・安心して水道水を飲める
- ・きれいな水が使えるまち



- ・自然豊かなまち
- ・地球温暖化対策
- ・有害物質、環境を子孫に残さない

- ・公園が多い、大きい公園
- ・学生が遊べるところが多い
- ・楽しい施設がいっぱいあって、にぎわっているまち

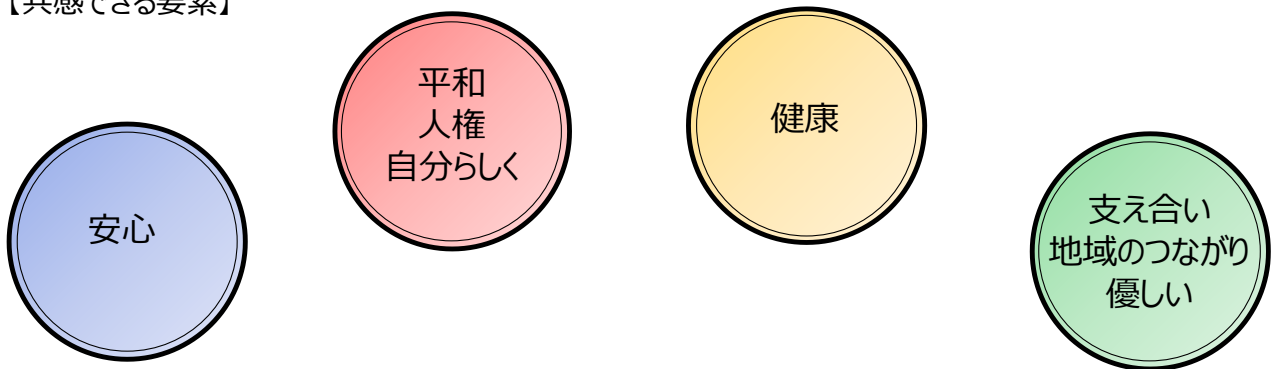


- ・地域の交流を強く
- ・優しいまち
- ・人とのつながりを大切にする社会
- ・交流を深めることができる居場所づくり

(4)自分らしく、健康で安心に暮らせるまち

個性や価値観などを尊重し、お互いに支え合い、誰もが自分らしく健康で、平和に安心して暮らすことができるまちを目指します。

【共感できる要素】



【WC・小中学生アンケートによる市民の声】

10年先、20年先の摂津市はどんなまちになってほしい？

- ・安心安全のまち
- ・子どもからお年寄りまでが安心して暮らせる
- ・日々の生活を健康に安心してすごせるまち



- ・治安が良くなってほしい
- ・犯罪が少なくなってほしい
- ・不審者や事件がないまち



- ・安心して子育てができるまち
- ・子どもがのびのび育つまち
- ・子ども達が自分の個性や得意なことに夢中になれる

- ・安心してスポーツができるところがほしい
- ・ボール遊びができて元気に遊べる



- ・いざというときに頼れる
- ・地域の人々で支え合い、協力しあえる
- ・障害者に優しいまちづくり



- ・いろいろな世代が住みやすいまち
- ・静かなまち
- ・都会と田舎の良い所を共存



- ・地域の交流を強く
- ・優しいまち
- ・人とのつながりを大切にする社会
- ・交流を深めることができる居場所づくり



- ・移動しやすいまち
- ・買い物や通院の交通手段
- ・高齢者に優しい移動手段



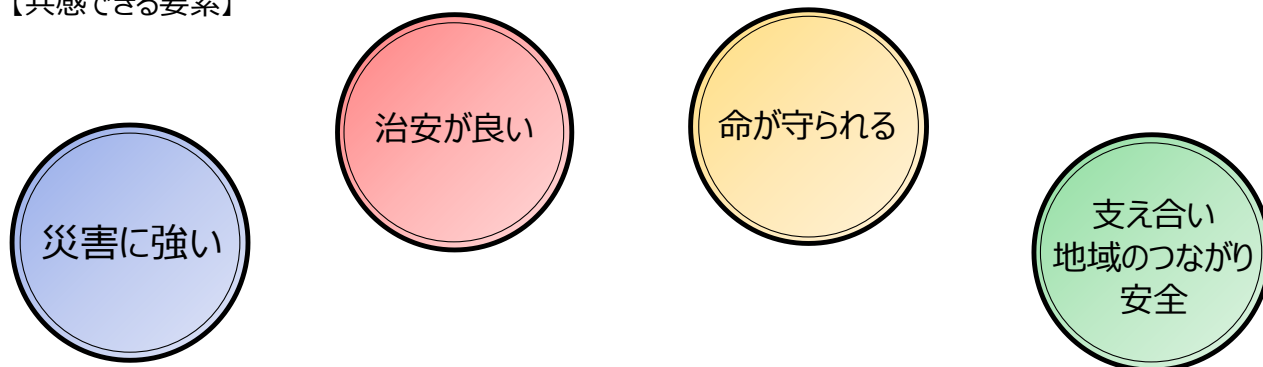
- ・平和なまち
- ・戦争のない
- ・差別がない



(5)命を守り、安全に暮らせるまち

災害への備えが整い、治安も良く、全ての市民の命が守られ、安全に暮らすことができるまちを目指します。

【共感できる要素】



10年先、20年先の摂津市はどんなまちになってほしい？



- ・災害、水害に強い
- ・地震が起きてもみんなで協力できるまち
- ・防災意識が高いまち



- ・いざというときに頼れる
- ・地域の人々で支え合い、協力しあえる
- ・障害者に優しいまちづくり



- ・地域の交流を強く
- ・優しいまち
- ・人とのつながりを大切にする社会
- ・交流を深めることができる居場所づくり



- ・安心安全のまち
- ・子どもからお年寄りまでが安心して暮らせる
- ・日々の生活を健康に安心してすごせるまち



- ・治安が良くなってほしい
- ・犯罪が少なくなっているほしい
- ・不審者や事件がないまち

- ・平和なまち
- ・戦争のない
- ・差別がない



- ・安心して水道水を飲める
- ・きれいな水が使えるまち

第4節 基本姿勢

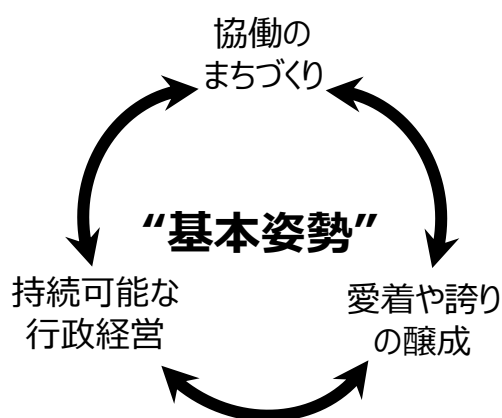
人口減少及び少子高齢化の急速な進行や住民ニーズの複雑化・多様化などを前に、地方自治体には従来の行政運営の枠組みそのものの転換が求められています。

今後、地域社会の担い手不足や経済規模の縮小が進む中、これからの地方自治体は、行政のみで課題を抱え込むのではなく、市民、企業、団体等による“協働のまちづくり”へ舵を切る必要があります。多様な主体が役割を分担し、「公共私」のベストミックスにより地域の暮らしを支える仕組みを構築することが求められています。

また、「協働」の力を高めていくためには、地域を良くしていこうとする市民の存在が欠かせません。人口減少社会においては、まちに対する“愛着や誇りの醸成”によって、定住する市民を増やしていくとともに、市民主体のまちづくりを推進することが、自治体の重要な役割となります。

加えて、地方自治体を取り巻く環境が厳しさを増す中、今後も“持続可能な行政経営”を続けていくためには、従来の単独の自治体であらゆる行政サービスを完結させる「フルセット主義」から脱却し、広域的な連携による「圏域マネジメント」や、AI、ロボット技術等を活用した「スマート自治体」への転換が必要です。限られた財源の中で最大の効果を発揮するため、データに基づく政策形成や業務改革を推し進めるとともに、「協働」の力を引き出し、高めていくことができる人材の育成も重要となります。

以上を踏まえ、本戦略の推進にあたっての基本姿勢として、“協働のまちづくり”、“愛着や誇りの醸成”、“持続可能な行政経営”を掲げ、それらを三位一体で推進しながら、将来都市像「みんなが育む つながりのまち 摂津」の実現に向け、取組を進めていきます。



協働のまちづくり

複雑多様化するニーズに応えるためには、行政だけでなく、摂津市に関わるみんなが主体性をもち、お互いの特性を尊重し、それぞれの強みを活かしながら、連携・協力することが不可欠です。

市民や団体、事業者、行政等がそれぞれの分野で活躍できる環境を整備するとともに、組織や既存の枠組みを超えて、みんなが参画するまちづくりを進めてまいります。

愛着や誇りの醸成

人口減少社会において持続的にまちを発展させていくためには、住み続けたい、離れても戻りたいと思えるような、選ばれ続けるまちであることが重要です。

本市の特色や魅力をさらに磨き上げ、市民のまちに対する愛着や誇りを醸成してまいります。

持続可能な行政経営

将来にわたって安定的に質の高い行政サービスを提供し続けるためには、限りある財源や人材、資源を有効に活用することが求められます。

前例に捉われず時代の変化に柔軟に対応できる人材の育成と能力を最大限発揮できる職場環境を整備するとともに、市民ニーズを的確に捉え、データに基づく不断の業務改革に取り組むことにより、最少の経費で最大の効果を発揮する行政経営を推進してまいります。